

ユニオンガール'S TALK No5

しみず まゆみ
清水 麻友美さん

連合群馬女性委員会 幹事
澤藤電機労働組合 代議員



い学」へ講師として参加しました。グループディスカッションでは生徒と話をし、会社の紹介や仕事の内容、現在の職業を選ぶに至った経緯、学生時代にしていたことで働くときに役立ったことなどを話しました。皆さん、進路について漠然としている段階のようでしたが、熱心に耳を傾けてくれました。ゲームでも服でも自分の好きなものにヒントがあるという話や、機械や家電だけではなく、食品やアパレルなど、たくさん業種があることを伝えました。職業選択の視野が広がったらいかな…と。そして、自分自身の仕事を見直すきっかけにもなりました。

組合には活躍のチャンスがたくさんある！

はじめまして、ユニオンガール'S TALKへようこそ

ー組合活動は どうですか？

現在、組合の代議員を務めて2年になります。職場から1名が代議員として選出され、声が掛かった時は快く引き受けました。

代議員として組合員への周知や年数回のイベント運営に携わりますが、司会などステージに立つこともあります。

はじめは、人前に立つのは抵抗がありましたが「頑張っていたね。」と声をかけられ、顔も覚えてもらえるのはありがたいです。なんとと言っても、イベントとして何か一つのことをみんなで作り上げていく達成感は言葉には言い表せないですね。

ー女性活躍推進を どう思いますか？

関ブロ女性代表者会議に参加した時に年代も業種もバラバラなのに皆さん共通して口にしていたのが、自分の自動車業界は特にそうかもしれませんが、まずは女性が少ないということ。

そのような職場では、女性管理職の登用は少なく、業務もアシスタント的な内容が多いということから、前例がない部分はなかなか変わりにくいという認識は同じでした。性別による「差別」とはいかないまでも「区別」はまだまだ広く残っており、女性の活躍は、女性個々の問題もあるけれど、まずは社会の根強い考えを変えないとかなあとも思います。

ー女性委員会の活動は？

先日、女性委員会を代表して太田東高校の「公開みら

ー今後の抱負は

代議員は40名程いますが、そのうち女性は2名です。私もこの1年は代議員の議長として、月1回の会議進行や提案もさせてもらい、女性委員会の活動報告やイベントの周知など委員会のPRもさせてもらっています。

代議員になると、何かを伝えることも多く、文章にまとめて提案したり、発言したり、とても貴重な経験ができます。

そして、組合員はもちろん、上司や組合役員、先輩方などいろんな方に認めてもらえるチャンスがあります。イベントの司会でもそうですが、自分が担うことで、女性が「誰でもできる」「やってみよう」と思われるように、少しでも興味をもってもらえるように活動を進めていきたいですね。

ー最近の清水さんの様子を聞かせてください

会社では調達部に所属しており、部品選定や価格交渉など国内外の仕入先と取引をしています。

実は今年5月に結婚したこともあり、仕事や組合活動を特にメリハリをつけて進めています。

共働きということもあり、結婚当初から家事は分担し、結婚前と変わらず仕事や組合活動を続けられています。夫が色々協力してくれるのは本当にありがたいです。最初が肝心ですからね。(笑)



講師として生徒と
ディスカッション

Listener 吉田 香苗



「安心して働きたい・暮らしたい」
【未組織労働者の格差の声を組織拡大に】

私が連合群馬の組織アドバイザーに着任して早くも一年を経過致しました。この一年の活動の中で、相談を通して感じることは「組織のない職場と組織のある職場」の労働環境格差です。

群馬県内2015年6月の労働組合推定組織率は16.6%(全国17.4%)ですから、見方を変えれば80%以上の未組織労働者の声がそこにあるということです。電話や連合群馬に直接労働相談に来られる方は組織がないがゆえ労働相談の拠りどころとして「なんでも労働相談」に声を掛けて来られるわけです。

しかし、相談に来られる(ドアを叩く)相談者はほんの一部の方々です。自分たちの労働環境・労働条件を、何とか労働組合を作って改善向上させたいと思いを馳せる有志は、県内のいろんな業種で、いろんな職場・会社に多くおられることは間違いありません。相談内容は、個人的な労働相談と職場や会社(事業所)全体の労働条件に関係する労働相談に大別されます。後者の、全体に関係する労働相談については、組織化に結び付けることが可能なかどうか、相談の受け側として相談者の心証を計りながら、組織化・組合結成が可能であればもちろん組合作りへのアプローチに入っていきます。

「1000万連合」実現に向けた連合群馬の2020年(東京オリンピック開催年)、目標組織人員は12万5千人です。その目標に向け連合群馬としての組織拡大・組織強化の運動は未組織労働者(非正規労働者を含む)の、組合つくりへの隠れた思いを、草の根でとらえることが大事なのではと考えます。

地域・産別(業種)の枠を超えた情報提供を頂き、アンテナを高くし、未組織労働者の格差の声を組織拡大に結び付けていかなければなりません。

政府では今「雇用形態による賃金格差をなくす」と、同一労働同一賃金政策が議論されようとしています。

そのことも大事ですが、小欄のタイトルでもありますが、総合的な意味での「安心して働ける・暮らせる」ために未組織の、より多くの働く仲間を組織化を進めていかなければなりません。

(野口)